

11日野ひかり幼稚園ファミリー通信

短所には目をつぶる

「マイペースでだらしない」、

「一人揃えればようだいがんか」など

ほめたいけれど、毎日小言ばつか、という方も多いのではないのでしょうか？今日は、子どもの良さや長所を見つける方法をこれからお話ししていきましょう。

きましょう。

日本の子育てや教育では、親も先生も子どもの「短所を直す」をモットーにしている人が多い傾向にあります。それだと、どうしても叱ることが増えてします。「また〇〇してない。何度も言つたらできるの！」「ちゃんとやらなきゃダメでしょ！」など、否定的な言葉が出てしまいます。反対に、「長所を伸ばす」がモットーだと、ほめることができます。例えば、「絵が上手だね。」「走るのがは速いね！」「なんでも知つていて物知りなんだね！」などと、肯定的な言葉が自然と出るようになります。すると、それを聞いた子どもは、肯定的な言葉を繰り返し親に言われ続けることによって、それは自信から確信に変わります。つまり、自分に対する肯定的な思い込みを持てるようになるのです。人生は思い込みで決まります。自分は〇〇だと思い込めば、だんだんそうなっていくのです。子どもを伸ばすためには、否定的な言葉を投げかけるのではなく、その子の短所には思いきって目をつぶり、肯定的な言葉を繰り返し投げかけてあげることが大切だということです。今日から早速意識してみてはいかがでしょうか？

【引用先：ポピー・エフ九月号より】

子どもの長所を見つけよう
ほめたいけれど・・・

「マイペースでだらしない」、
「一人揃えればようだいがんか」など

ほめたいけれど、毎日小言ばつか、という方も多いのではないかのでしょうか？今日は、子どもの良さや長所を見つける方法をこれからお話ししていきましょう。

きましょう。

日本の子育てや教育では、親も先生も子どもの「短所を直す」をモットーにしている人が多い傾向にあります。それだと、どうしても叱ることが増えてします。「また〇〇してない。何度も言つたらできるの！」「ちゃんとやらなきゃダメでしょ！」など、否定的な言葉が出てしまいます。反対に、「長所を伸ばす」がモットーだと、ほめることができます。例えば、「絵が上手だね。」「走のがは速いね！」「なんでも知つていて物知りなんだね！」などと、肯定的な言葉が自然と出るようになります。すると、それを聞いた子どもは、肯定的な言葉を繰り返し親に言われ続けることによって、それは自信から確信に変わります。つまり、自分に対する肯定的な思い込みを持てるようになるのです。人生は思い込みで決まります。自分は〇〇だと思い込めば、だんだんそうなっていくのです。子どもを伸ばすためには、否定的な言葉を投げかけるのではなく、その子の短所には思いきって目をつぶり、肯定的な言葉を繰り返し投げかけてあげることが大切だということです。今日から早速意識してみてはいかがでしょうか？

【引用先：ポピー・エフ九月号より】

やる気がある子とそうでない子、どこが違う？

やる気はある子とそうでない子の違いとは？子どもの普段の行動や発言に、どんな違いが表れて来るのでしょうか？

やる気がある子に見られる姿

①物事をどんどん吸収して成長できる

物事に積極的に取り組み、知識や経験をどんどん身につけて行くことができます。

②集中力が高い

物事を行う上でエレルギーが高く、目の前ことに集中して取り組むことができます。

③身の回りのことに関心をもっている

何事にも好奇心が旺盛で、興味関心を持ったことに自ら関わっていこうとします。

④やってみたい気持ちが強い

多少の失敗にめげず、やりたいと思ったことに最後まで取り組む粘り強さがあります。

やってみたい気持ち、自己評価が高いといえます。

やる気がない子に見られる姿

①指示されたことしかやらず、伸びない

自分から何かをしようとする気持ちが少なく、人の指示や判断がないとやろうとしません。

②集中力がない

一つのことにじっくり取り組むことが難しく、取り組んでもすぐに飽きてしまいます。

③普段からマイナスな言葉が多い

周囲のことにあまり興味がなく、努力が必要なことから遠ざかろうとします。

④失敗を避けたがる

うまくいかないと、途中で投げ出しがあります。ちょっとしたことでも、失敗すると、さらに自信を失っていきます。



子どものお手伝い

Vol.2

食力ーテンの開け閉め

POINT 1 タオル、ハンカチからスタート

手順や考える力を養育する力が身につき、責任感や自己肯定感も生まれる「お手伝い」。親子にとって、いいことづくしのお手伝いとそのポイント、第三回目です。

POINT 2 自分の服をたたむ

タオルなどをたたむことに慣れてきたら、次は自分の服をた

たむことに挑戦してみましょう。自分のことは自分でやる、という経験が、子どもの自立にもつながります。また、「これは昨日遊んだ時に着た洋服だ。」明日はこれを着よう！」などと自分の持ち物に愛着が生まれ、大切にしようと気持も深まります。このときも、「きれいにたたむ」ことを目指さないようになります。

と、親子で一緒に喜び合うことが大切です。きれいにたたむということは子どもにとっては難しいことなので、自分でやろうとする気持ちを尊重しながら、できることに対して喜ぶ気持ちを教えてあげましょう。

家族の役に立てる喜びを十分に味わえるように

子どもはいつも、親に認められたいと思っています。役に立てるチャンスをぜひ作ってあげてください。作業としてさせるのではなく、一緒にやりながらその過程を楽しみましょう。だんだん上手にできるようになるはず

【引用先：連載考える力をはぐくむお手伝いより】